2019/12/23

柏の景気情報（２０１９年１１月分）

柏　商　工　会　議　所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011　千葉県柏市東上町７－１８
ＴＥＬ ： ０４－７１６２－３３０５
ＦＡＸ ： ０４－７１６２－３３２３
ＵＲＬ ： http://www.kashiwa-cci.or.jp
E-mail ： info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（ 2019年11月分 ）

○ 調 査 期 間　：　2019年11月25日　～　2019年12月6日

○ 調 査 対 象　：　柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全 産 業	156	71	45.5%
建　　設	44	19	43.2%
製　　造	33	13	39.4%
卸・小売	44	26	59.1%
サービス	35	13	37.1%

○ 調 査 方 法 と 調 査 表　：　下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回　答　欄					
	前年同月と比較した今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算（経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B　業界内のトピック（記述式）

DI値 ＝ 1増加他の回答割合 － 3減少他の回答割合

※ DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0（ゼロ）を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【2019年11月の業況についての状況】

11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25．3(前月水準▲34．2)となり、マイナス幅が8．9ポイント縮小した。

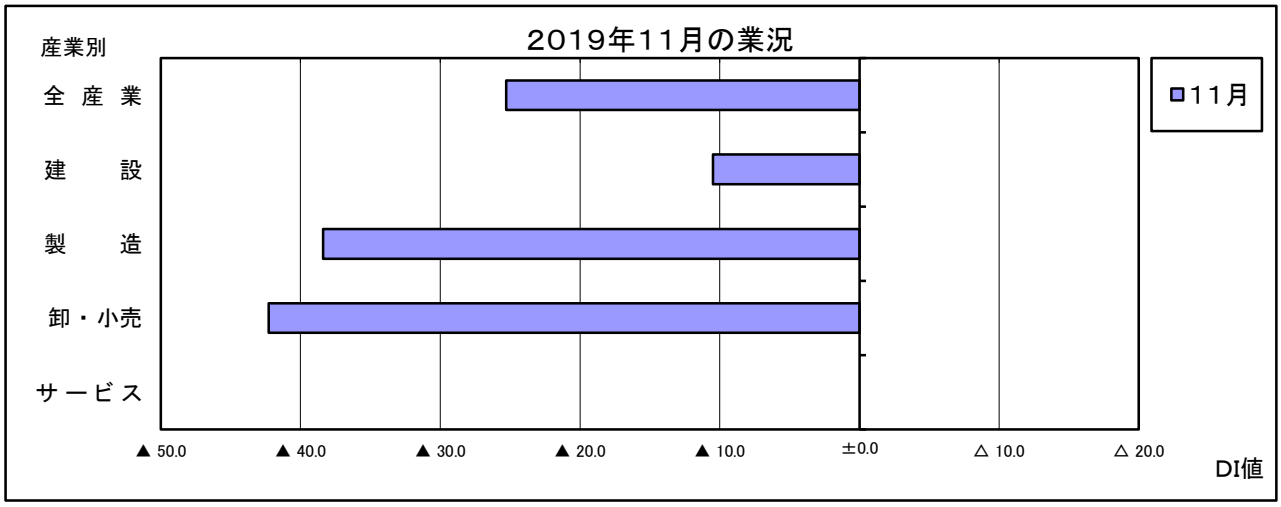
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0．0(同▲21．4)、卸小売業▲42．3(同▲59．0)、建設業▲10．5(同▲20．0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲38．4(同▲28．5)である。

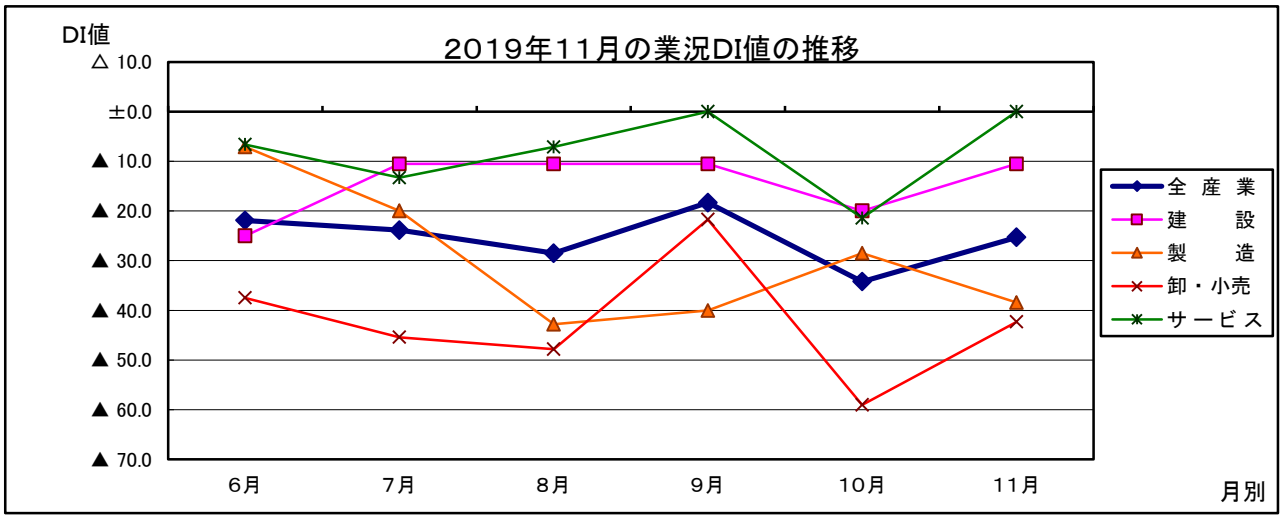
○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21．1(前月水準▲17．1)となり、マイナス幅が4．0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲10．5(同▲30．0)、卸小売業▲34．6(同▲36．3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0．0(同△21．4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲30．7(同▲7．1)である。

2019年11月業況DI値(前年同月比)の推移

	2019年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月 (11月～1月)
全 産 業	▲ 21.9	▲ 23.9	▲ 28.5	▲ 18.3	▲ 34.2	▲ 25.3	▲ 21.1 (▲ 17.1)
建 設	▲ 25.0	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 20.0	▲ 10.5	▲ 10.5 (▲ 30.0)
製 造	▲ 7.1	▲ 20.0	▲ 42.8	▲ 40.0	▲ 28.5	▲ 38.4	▲ 30.7 (▲ 7.1)
卸・小売	▲ 37.5	▲ 45.4	▲ 47.8	▲ 21.7	▲ 59.0	▲ 42.3	▲ 34.6 (▲ 36.3)
サービス	▲ 6.6	▲ 13.3	▲ 7.1	±0.0	▲ 21.4	±0.0	±0.0 (△ 21.4)





【2019年11月の売上についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18．3(前月水準▲47．1)となり、マイナス幅が28．8ポイント縮小した。

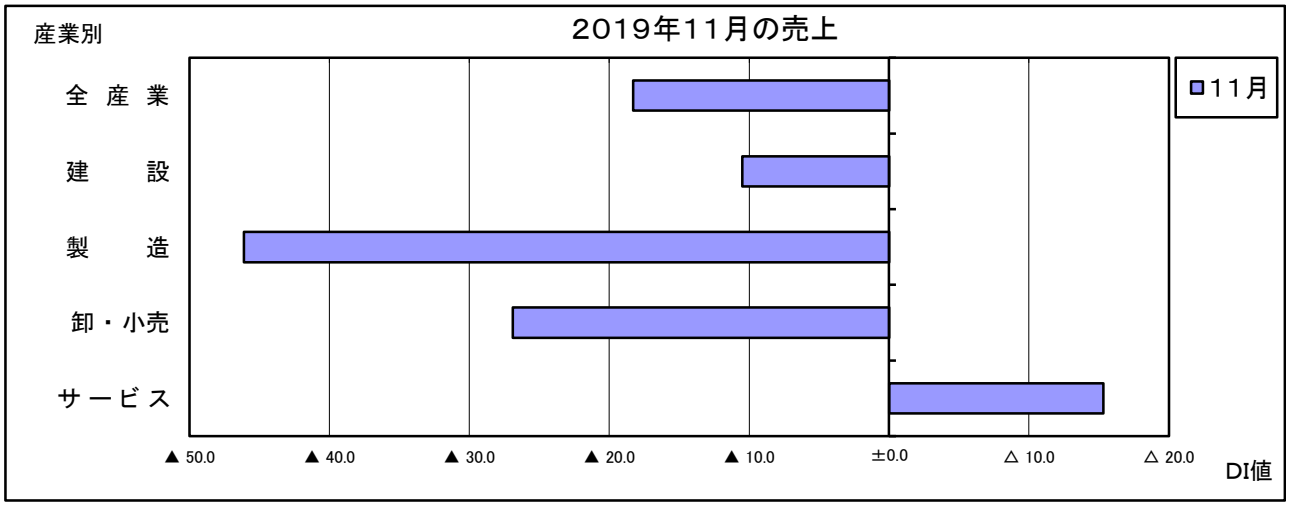
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△15．3(同▲21．4)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲26．9(同▲77．2)、製造業▲46．1(同▲64．2)、建設業▲10．5(同▲20．0)である。

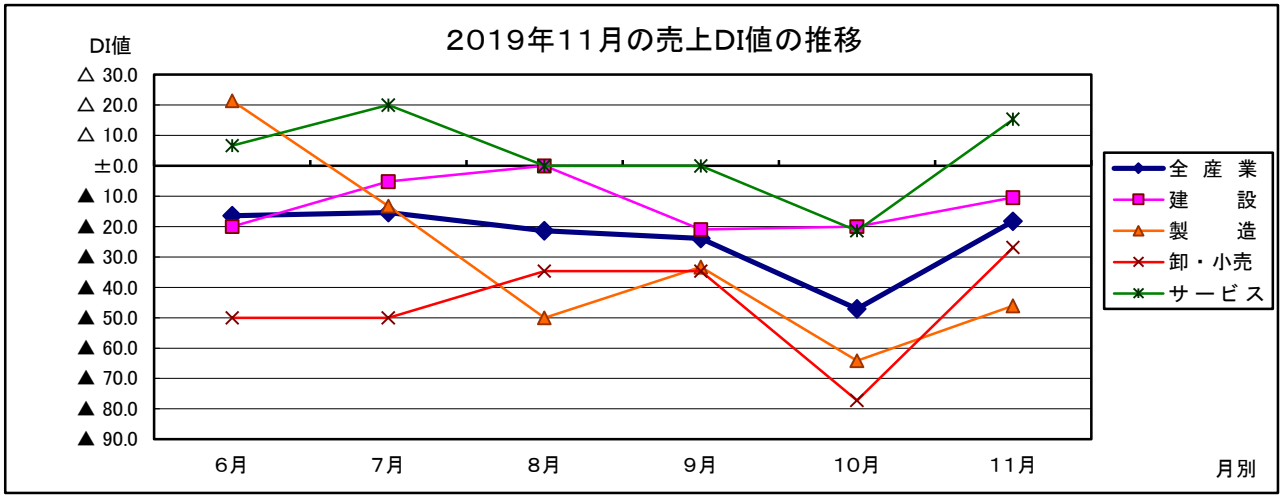
○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14．0(前月水準▲15．7)となり、マイナス幅が1．7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲23．0(同▲40．9)、建設業▲10．5(同▲25．0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△15．3(同△28．5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲30．7(同▲7．1)である。

2019年11月の売上DI値(前年同月比)の推移

	2019年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月 (11月～1月)
全 産 業	▲ 16.4	▲ 15.4	▲ 21.4	▲ 23.9	▲ 47.1	▲ 18.3	▲ 14.0 (▲ 15.7)
建 設	▲ 20.0	▲ 5.2	±0.0	▲ 21.0	▲ 20.0	▲ 10.5	▲ 10.5 (▲ 25.0)
製 造	△ 21.4	▲ 13.3	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 64.2	▲ 46.1	▲ 30.7 (▲ 7.1)
卸・小売	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 34.7	▲ 34.7	▲ 77.2	▲ 26.9	▲ 23.0 (▲ 40.9)
サービス	△ 6.6	△ 20.0	±0.0	±0.0	▲ 21.4	△ 15.3	△ 15.3 (△ 28.5)





【2019年11月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28．1（前月水準▲45．7）となり、マイナス幅が17．6ポイント縮小した。

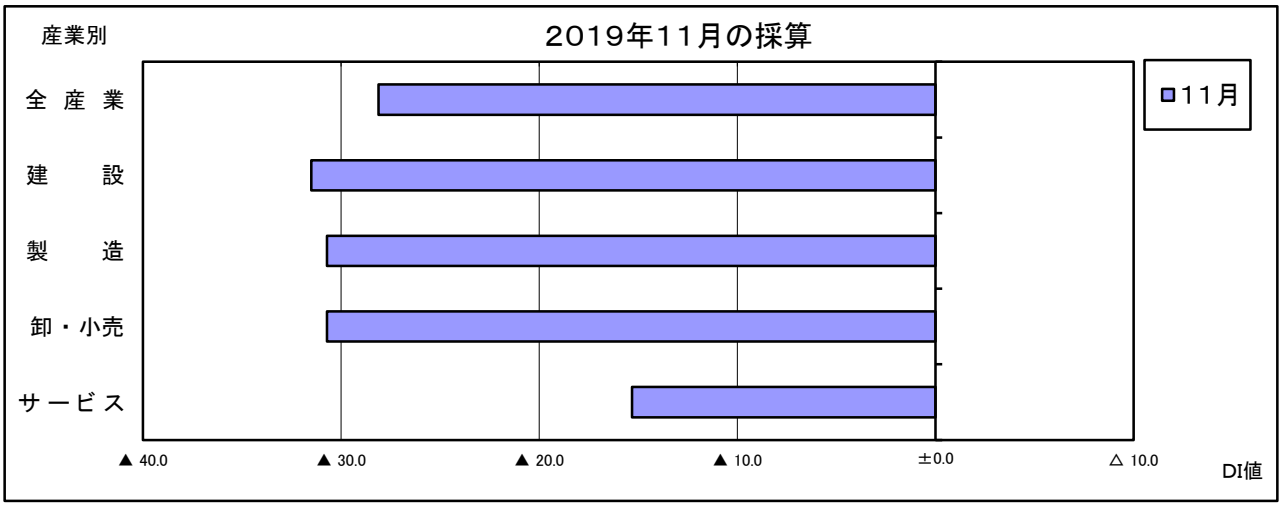
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲30．7(同▲77．2)、製造業▲30．7(同▲50．0)、サービス業▲15．3(同▲28．5)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲31．5(同▲20．0)である。

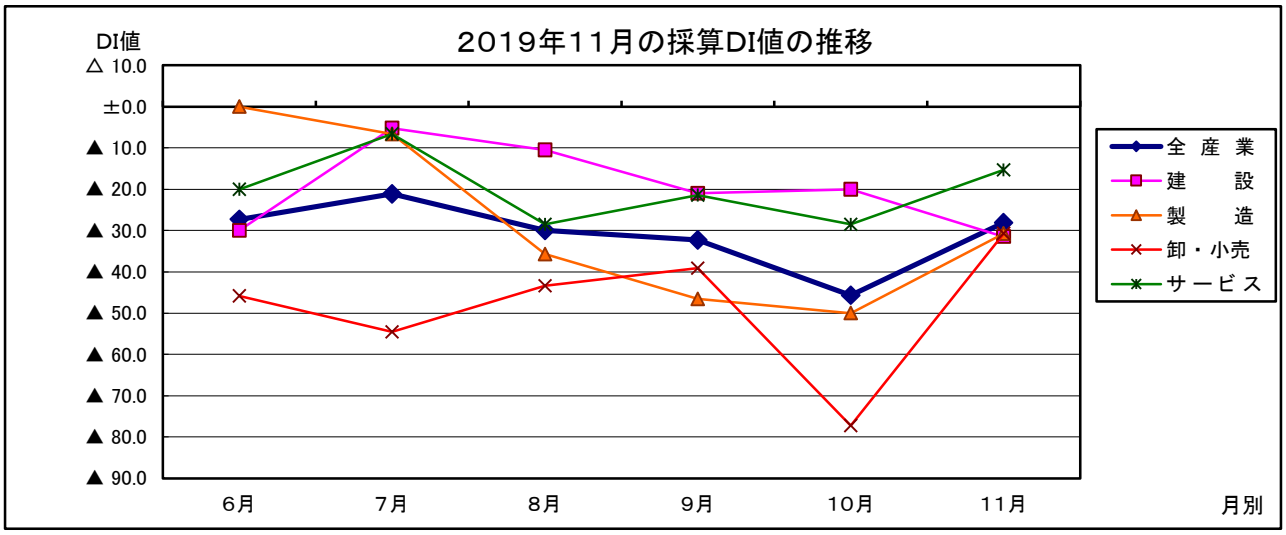
○ 向こう3ヶ月（12月から2月）の先行き見通しについては、全産業では、▲18．3（前月水準▲20．0）であり、マイナス幅が1．7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲26．9(同▲45．4)、製造業▲23．0(同▲28．5)、建設業▲21．0(同▲25．0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△7．6(同△35．7)である。

2019年11月の採算DI値（前年同月比）の推移

	2019年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月（ 11月～1月 ）
全 産 業	▲ 27.3	▲ 21.1	▲ 30.0	▲ 32.3	▲ 45.7	▲ 28.1	▲ 18.3（ ▲ 20.0 ）
建 設	▲ 30.0	▲ 5.2	▲ 10.5	▲ 21.0	▲ 20.0	▲ 31.5	▲ 21.0（ ▲ 25.0 ）
製 造	±0.0	▲ 6.6	▲ 35.7	▲ 46.6	▲ 50.0	▲ 30.7	▲ 23.0（ ▲ 28.5 ）
卸・小売	▲ 45.8	▲ 54.5	▲ 43.4	▲ 39.1	▲ 77.2	▲ 30.7	▲ 26.9（ ▲ 45.4 ）
サービス	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 28.5	▲ 21.4	▲ 28.5	▲ 15.3	△ 7.6（ △ 35.7 ）





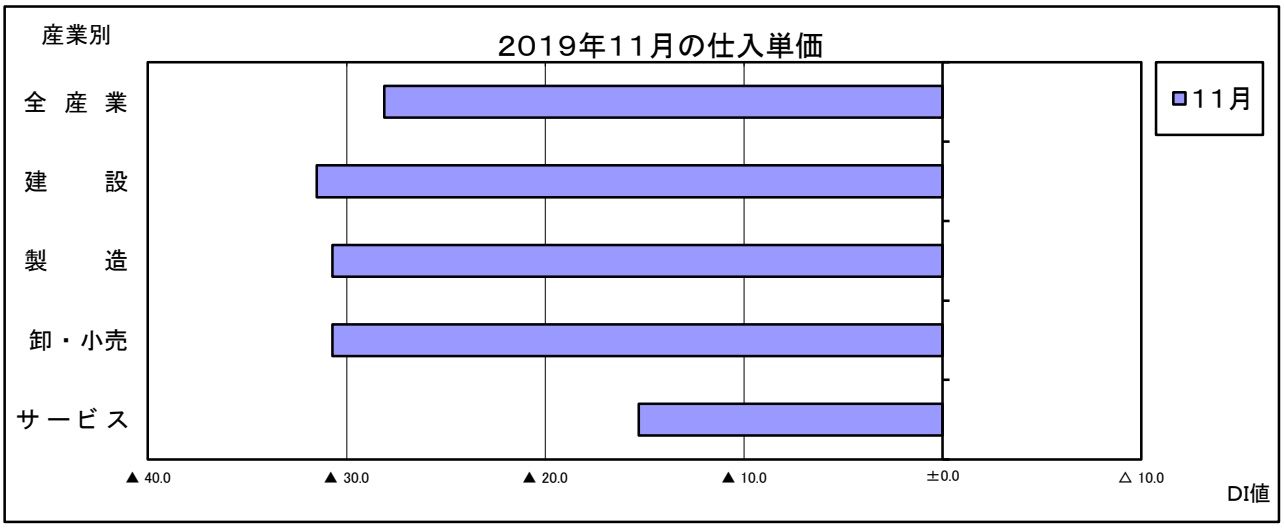
【2019年11月の仕入単価についての状況】

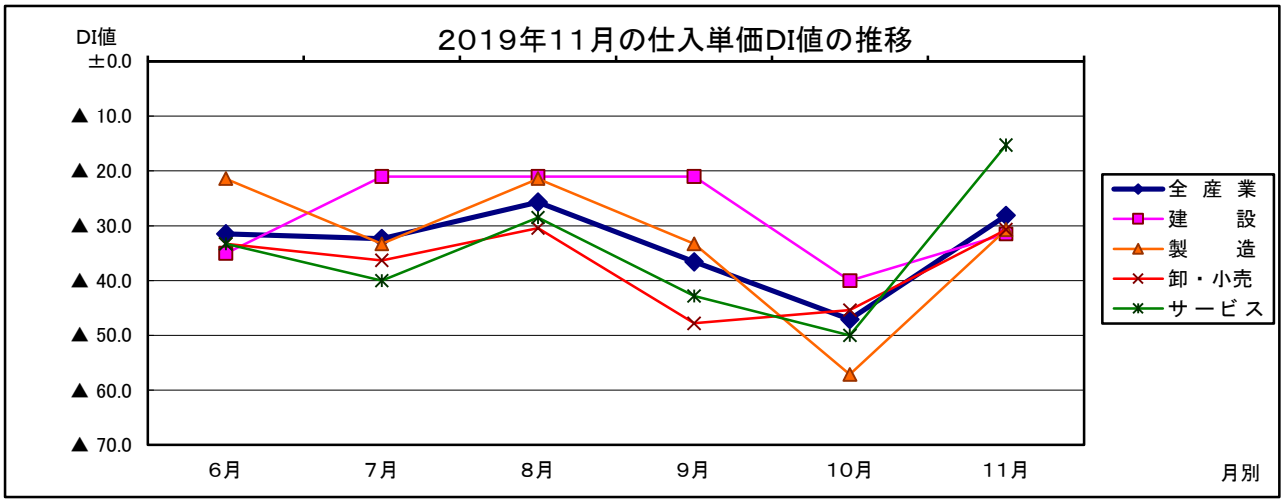
○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28．1（前月水準▲47．1）となり、マイナス幅が19．0ポイント縮小した。
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15．3(同▲50．0)、製造業▲30．7(同▲57．1)、卸小売業▲30．7(同▲45．4)、建設業▲31．5(同▲40．0)である。

○ 向こう3ヶ月（12月から2月）の先行き見通しについては、全産業では、▲23．9（前月水準▲30．0）となり、マイナス幅が6．1ポイント縮小する見通しである。
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲15．7(同▲35．0)、製造業▲15．3(同▲21．4)、サービス業▲15．3(同▲21．4)である。
マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲38．4(同▲36．3)である。

2019年11月の仕入単価DI値（前年同月比）の推移

	2019年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月（ 11月～1月 ）
全 産 業	▲ 31.5	▲ 32.3	▲ 25.7	▲ 36.6	▲ 47.1	▲ 28.1	▲ 23.9（ ▲ 30.0 ）
建 設	▲ 35.0	▲ 21.0	▲ 21.0	▲ 21.0	▲ 40.0	▲ 31.5	▲ 15.7（ ▲ 35.0 ）
製 造	▲ 21.4	▲ 33.3	▲ 21.4	▲ 33.3	▲ 57.1	▲ 30.7	▲ 15.3（ ▲ 21.4 ）
卸・小売	▲ 33.3	▲ 36.3	▲ 30.4	▲ 47.8	▲ 45.4	▲ 30.7	▲ 38.4（ ▲ 36.3 ）
サービス	▲ 33.3	▲ 40.0	▲ 28.5	▲ 42.8	▲ 50.0	▲ 15.3	▲ 15.3（ ▲ 21.4 ）





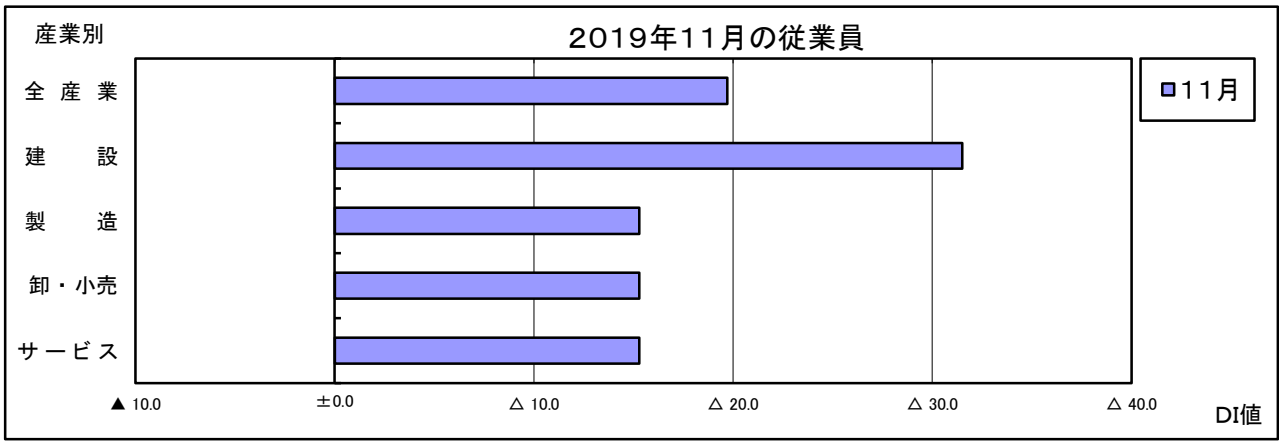
【2019年11月の従業員についての状況】

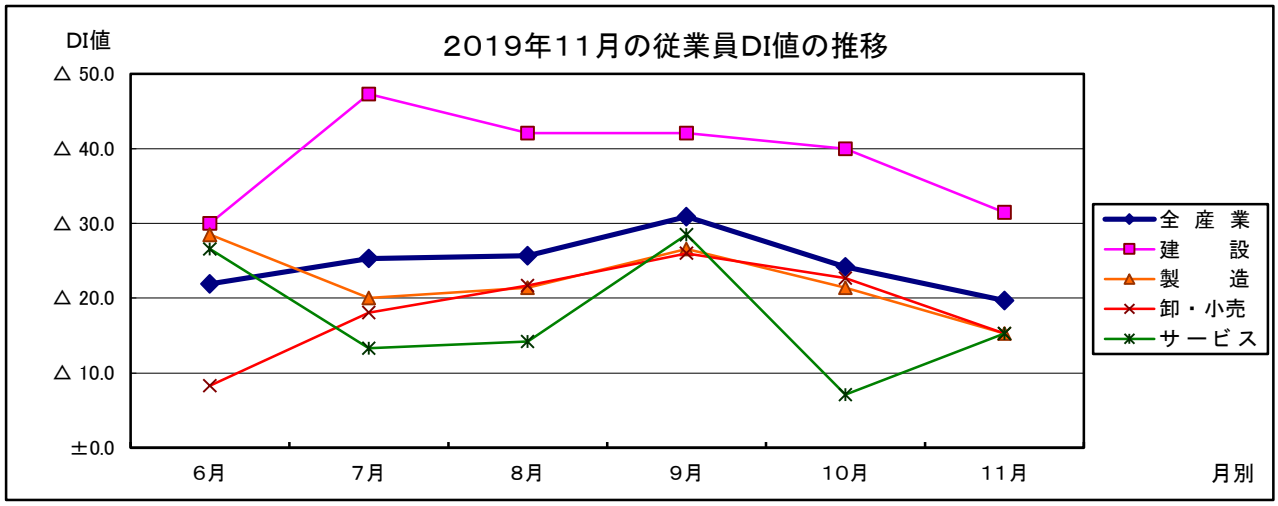
○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△19．7（前月水準△24．2）となり、プラス幅が4．5ポイント縮小した。
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△15．3(同△7．1)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業△31．5(同△40．0)、卸小売業△15．3(同△22．7)、製造業△15．3(同△21．4)である。

○ 向こう3ヶ月（12月から2月）の先行き見通しについては、全産業では、△23．9（前月水準△27．1）となり、プラス幅が3．2ポイント縮小する見通しである。
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△30．7(同△28．5)、サービス業△15．3(同△14．2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△15．3(同△22．7)、建設業△36．8(同△40．0)である。

2019年11月の従業員DI値（前年同月比）の推移

	2019年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月（11月～1月）
全産業	△ 21.9	△ 25.3	△ 25.7	△ 30.9	△ 24.2	△ 19.7	△ 23.9（ △ 27.1 ）
建設	△ 30.0	△ 47.3	△ 42.1	△ 42.1	△ 40.0	△ 31.5	△ 36.8（ △ 40.0 ）
製造	△ 28.5	△ 20.0	△ 21.4	△ 26.6	△ 21.4	△ 15.3	△ 30.7（ △ 28.5 ）
卸・小売	△ 8.3	△ 18.1	△ 21.7	△ 26.0	△ 22.7	△ 15.3	△ 15.3（ △ 22.7 ）
サービス	△ 26.6	△ 13.3	△ 14.2	△ 28.5	△ 7.1	△ 15.3	△ 15.3（ △ 14.2 ）





【2019年11月の資金繰りについての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12．6(前月水準▲17．1)となり、マイナス幅が4．5ポイント縮小した。

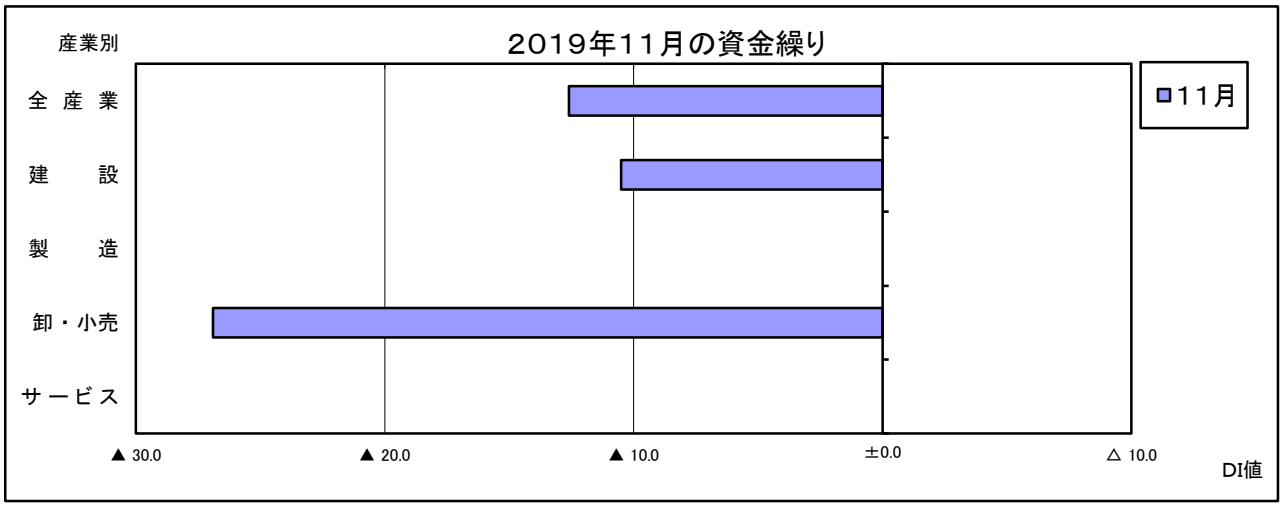
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0．0(同▲21．4)、製造業±0．0(同▲7．1)、卸小売業▲26．9(同▲31．8)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲10．5(同▲5．0)である。

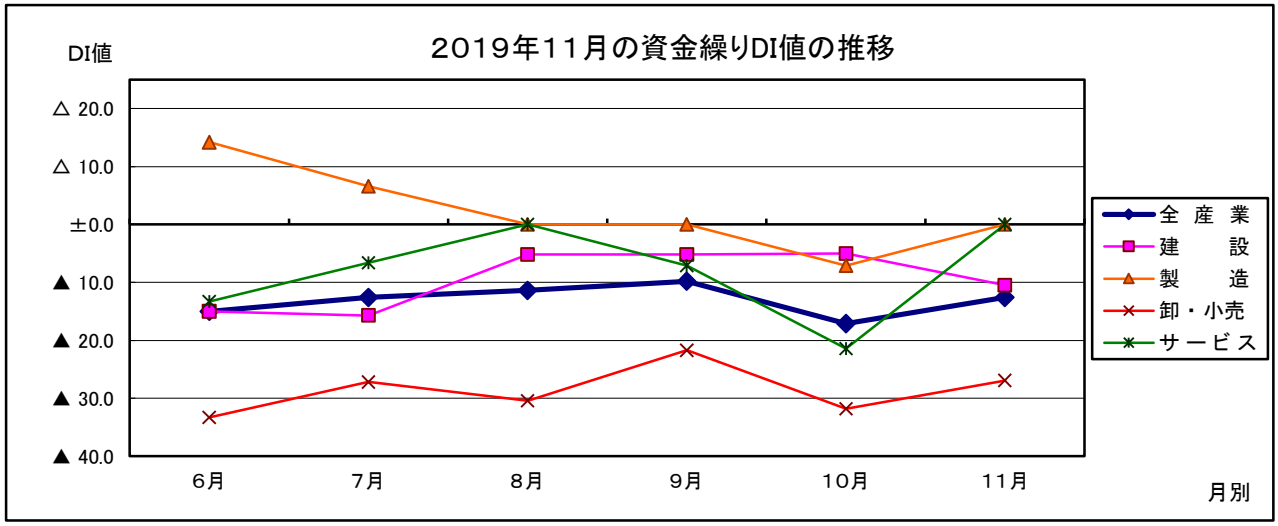
○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8．4(前月水準▲8．5)となり、マイナス幅が0．1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0．0(同▲10．0)、卸小売業▲19．2(同▲22．7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△7．6(同△14．2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲15．3(同▲7．1)である。

2019年11月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	2019年6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月（11月～1月）
全産業	▲ 15.0	▲ 12.6	▲ 11.4	▲ 9.8	▲ 17.1	▲ 12.6	▲ 8.4（ ▲ 8.5）
建設	▲ 15.0	▲ 15.7	▲ 5.2	▲ 5.2	▲ 5.0	▲ 10.5	±0.0（ ▲ 10.0）
製造	△ 14.2	△ 6.6	±0.0	±0.0	▲ 7.1	±0.0	▲ 15.3（ ▲ 7.1）
卸・小売	▲ 33.3	▲ 27.2	▲ 30.4	▲ 21.7	▲ 31.8	▲ 26.9	▲ 19.2（ ▲ 22.7）
サービス	▲ 13.3	▲ 6.6	±0.0	▲ 7.1	▲ 21.4	±0.0	△ 7.6（ △ 14.2）





【2019年11月の調査結果のポイント】

≪全産業DIは改善するも、卸小売、製造業はマイナス幅大きい。先行きは期待感見られるも、慎重な見方崩れず≫

11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25．3（前月水準▲34．2)となり、マイナス幅が8．9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0．0(同▲21．4)、卸小売業▲42．3(同▲59．0)、建設業▲10．5(同▲20．0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲38．4(同▲28．5)である。

【建設業】からは、「事業承継の最中で整理に追われ、本来の業務が滞り業績が下降傾向。今までワンマンでやってきたツケが噴出」（一般土木建築工事業）、「台風被害の対応に追われ、仕事がはかどらない。屋根業者へ仕事が集中し、台風被害の現場にも影響が出ている」（一般土木建築工事業）などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「経済状況が一気に変化して、廃業、閉店が目に付くようになってきた。それぞれ考察していかなければ生き残れない」（印刷業）、「2020年前半まで景気停滞が続くという情報と、2020年3月頃から戻りそうだという情報。どちらにしても足元は全くよくない」（金属素形材製品製造業）、「温暖化により、例年の季節需要が少しずつ減っており、受注の波が無くなりつつある」（自動車付属品製造業）、「今月は社員の健康診断の月。生産性の向上や効率的な業務遂行の為にも社員の健康管理が必要とされるが、結果についても指導する必要があるのではないか」（印刷業）などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「消費が冷えている」（食料・飲料卸売業）、「歳暮ギフトは前年実績を若干下回っている」（百貨店）、「3学期以降の新学期待ち」（書籍・文房具小売業）、「気温低下が続き、防寒物が好調。落ち込みは最小限に留められている」（大型小売店）、「流山インターの巨大物流センター2社では観光バス並みの立派な送迎用バスを運行して好評の様子。フリータイムの勤務体制とバス送迎が人気で近隣の人手不足の要因となる。また、商談の機会は多々あるが人手不足（特に有資格者）により人材確保が難しく参加できない」（飲食料品小売業）、「個人商店の減少に伴い売上も減少。働き方改革による夏場の売上減少も考えられるので、1年を通して悪化する見通し」（製氷業）、「クリスマスの予約の動きがにぶい」（洋菓子店）などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「何よりも人手不足は深刻。売上が伸びても外注頼りは逆に不安あり」（ソフトウェア業）、「柏インフォメーションセンターが新しくなってから、人が入っているのを見ない」（不動産賃貸業）、「購入客からの問い合わせは減少気味。不動産業者からの自社物件の業者買取依頼が徐々に増加。賃貸需要も低調。全体としての動きは横ばい」（不動産管理業）などのコメントが寄せられた。

◎消費増税の影響

「食品を取り扱っているが、軽減税率による納品、請求書等が複雑である」（飲食料品小売業）、「売上高は増加しているが利益は増加せず。仕入価額の上昇と消費増税の影響がじわじわきている」（電気工事業）、「消費増税により約半月分位の前倒し注文はあったが、すぐに元に戻りほんの一時の動きでしかなかった」（自動車付属品製造業）、「10月は消費増税の駆け込み変動が大きかったものの、11月に入り落ち着いており、現状は前年実績を若干上回る推移（＋1％未満）である」（百貨店）、「増税より天候による影響の方が大きい。最低賃金引き上げにより人手と人件費の再考が必要」（各種商品小売業）、「食品は増税の影響はほぼなし」（大型小売店）、「10月は消費増税の反動を受けたが11月は回復基調」（各種商品小売業）、「レジデンス・テナントの空室率、賃料共に安定。下げ圧力は感じられないが、肌感覚では消費者のお財布の紐がきつくなった感じがする。やはり多少は消費増税の影響が出ていると思う」（不動産賃貸・管理業）、「気候などの影響が少なく売上は昨年並みになったが、消費増税などの影響で今後の動きが不透明」（日本料理）との声が寄せられた。

◎キャッシュレス

「キャッシュレス対策が暗礁に乗り上げている。様子見を続けるべきか検討中」（畳工事請負・畳製造販売業）、「増税とキャッシュレスで複雑になるばかり」（機械器具小売業）、「リフォーム工事では電子決済の普及が進みつつあり、諸費用の負担分をどのように確保するかが課題となっている」（一般土木建築工事業）、「キャッシュレス決済は引き続き増加している」（大型小売店）との声が寄せられた。

.

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲ 21.9	▲ 25.0	▲ 7.1	▲ 37.5	▲ 6.6
7月	▲ 23.9	▲ 10.5	▲ 20.0	▲ 45.4	▲ 13.3
8月	▲ 28.5	▲ 10.5	▲ 42.8	▲ 47.8	▲ 7.1
9月	▲ 18.3	▲ 10.5	▲ 40.0	▲ 21.7	±0.0
10月	▲ 34.2	▲ 20.0	▲ 28.5	▲ 59.0	▲ 21.4
11月	▲ 25.3	▲ 10.5	▲ 38.4	▲ 42.3	±0.0
見通し	▲ 21.1	▲ 10.5	▲ 30.7	▲ 34.6	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全　業　種	▲ 18.3	▲ 14.0	▲ 28.1	▲ 18.3	▲ 28.1	▲ 23.9	△ 19.7	△ 23.9
建　　設	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 31.5	▲ 21.0	▲ 31.5	▲ 15.7	△ 31.5	△ 36.8
製　　造	▲ 46.1	▲ 30.7	▲ 30.7	▲ 23.0	▲ 30.7	▲ 15.3	△ 15.3	△ 30.7
卸・小売	▲ 26.9	▲ 23.0	▲ 30.7	▲ 26.9	▲ 30.7	▲ 38.4	△ 15.3	△ 15.3
サービス	△ 15.3	△ 15.3	▲ 15.3	△ 7.6	▲ 15.3	▲ 15.3	△ 15.3	△ 15.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全　業　種	▲ 25.3	▲ 21.1	▲ 12.6	▲ 8.4
建　　設	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 10.5	±0.0
製　　造	▲ 38.4	▲ 30.7	±0.0	▲ 15.3
卸・小売	▲ 42.3	▲ 34.6	▲ 26.9	▲ 19.2
サービス	±0.0	±0.0	±0.0	△ 7.6

【2019年11月業種別業界内トピックス】

業種別	概　　況	トピック	業種
建設業	事業承継の最中で整理に追われ、本来の業務が滞り業績が下降傾向。今までワンマンでやってきたツケが噴出。	事業承継 業績不振	一般土木建築工事業
	キャッシュレス対策が暗礁に乗り上げている。様子見を続けるべきか検討中。	キャッシュレス	畳工事請負・畳製造販売業
	増税＋キャッシュレスで複雑になるばかりで問題。	消費増税 キャッシュレス	機械器具小売業
	リフォーム工事では電子決済の普及が進みつつあり、諸費用の負担分をどのように確保するかが課題となっている。また、台風被害の対応に追われなかなか仕事がはかどらない。屋根業者へ仕事が集中し、台風被害の現場にも影響が出ている。	電子決済 台風被害	一般土木建築工事業
	売上高は増加しているが利益は増加せず。仕入価額の上昇と消費増税の影響がじわじわきている。	経費増加 消費増税の影響	電気工事業
製造業	経済状況が一気に変化して、廃業、閉店が目に付くようになってきた。それぞれ考察していかなければ生き残れない。	経済情勢の変化	印刷業
	2020年前半まで景気停滞が続くという情報と、2020年3月頃から戻りそうだという情報。どちらにしても足元は全くよくない。	先行き不透明	金属素形材製品製造業
	消費増税により約半月分位の前倒し注文はあったが、すぐに元に戻りほんの一時の動きでしかなかった。温暖化により、例年の季節需要が少しずつ減っており、受注の波が無くなりつつある。	消費増税 受注減少	自動車付属品製造業
	今月は社員の健康診断の月。生産性の向上や効率的な業務遂行の為にも社員の健康管理が必要とされるが、結果についても指導する必要があるのではないか。	健康管理 生産性の向上	印刷業
卸小売業	消費熱が冷えている。	消費の落ち込み	食料・飲料卸売業
	10月は消費増税の駆け込み変動が大きかったものの、11月に入り落ち着いており、現状は前年実績を若干上回る推移（＋1%未満）である。一方、歳暮ギフトは前年実績を若干下回っている。	消費増税 売上前年比増	百貨店
	3学期以降の新学期待ち。	新学期	書籍・文房具小売業
	食品は増税の影響はほぼなし。気温低下が続き、防寒物が好調。落ち込みは最小限に留められている。キャッシュレス決済は引き続き増加している。	消費増税 キャッシュレス	大型小売店
	流山インターの巨大物流センター2社では観光バス並みの立派な送迎用バスを運行して好評の様子。フリータイムの勤務体制とバス送迎が人気で近隣の人手不足の要因となる。また、商談の機会は多々あるが人手不足（特に有資格者）により人材確保が難しく参加できない。また、食品を取り扱っているが、軽減税率による納品、請求書等が複雑である。	人手不足 軽減税率制度	飲食料品小売業
	個人商店の減少に伴い売上も減少。働き方改革による夏場の売上減少も考えられるので、1年を通して悪化する見通し。	売上減少 働き方改革の影響	製氷業
	10月は消費増税の反動を受けたが、11月は回復基調。	消費増税	各種商品小売業
	クリスマスの予約の動きがにぶい。	クリスマス需要	洋菓子店
	増税の影響はあまり感じられない。天候による影響の方が大きい。最低賃金引き上げにより人手と人件費の再考が必要。	天候の影響 最低賃金引上げ	各種商品小売業
サービス業	何よりも人手不足は深刻。売上が伸びても外注頼りは逆に不安。	人手不足	ソフトウェア業
	レジデンス・テナントの空室率、賃料共に安定。下げ圧力は感じられないが、肌感覚では消費者のお財布の紐がきつくなった感じがする。やはり多少は消費増税の影響が出ていると思う。	消費増税	不動産賃貸・管理業
	気候等の影響が少なく売上は昨年並になったが、消費増税などの影響で今後の動きが不透明。	消費増税 先行き不透明	日本料理
	柏インフォメーションセンターが新しくなってから人が入っているのを見ない。	柏インフォメーションセンター	不動産賃貸業
	購入客からの問い合わせは減少気味。不動産業者からの自社物件の業者買取依頼が徐々に増加。賃貸需要も低調。全体としての動きは横ばい。	業況不変	不動産管理業

◎消費増税の影響

「食品を取り扱っているが、軽減税率による納品、請求書等が複雑である」（飲食料品小売業）、「売上高は増加しているが利益は増加せず。仕入価額の上昇と消費増税の影響がじわじわきている」（電気工事業）、「消費増税により約半月分位の前倒し注文はあったが、すぐに元に戻りほんの一時の動きでしかなかった」（自動車付属品製造業）、「１０月は消費増税の駆け込み変動が大きかったものの、１１月に入り落ち着いており、現状は前年実績を若干上回る推移（＋１％未満）である」（百貨店）、「増税より天候による影響の方が大きい。最低賃金引き上げにより人手と人件費の再考が必要」（各種商品小売業）、「食品は増税の影響はほぼなし」（大型小売店）、「１０月は消費増税の反動を受けたが１１月は回復基調」（各種商品小売業）、「レジデンス・テナントの空室率、賃料共に安定。下げ圧力は感じられないが、肌感覚では消費者のお財布の紐がきつくなった感じがする。やはり多少は消費増税の影響が出ていると思う」（不動産賃貸・管理業）、「気候などの影響が少なく売上は昨年並みになったが、消費増税などの影響で今後の動きが不透明」（日本料理）との声が寄せられた。

◎キャッシュレス

「キャッシュレス対策が暗礁に乗り上げている。様子見を続けるべきか検討中」（畳工事請負・畳製造販売業）、「増税とキャッシュレスで複雑になるばかり」（機械器具小売業）、「リフォーム工事では電子決済の普及が進みつつあり、諸費用の負担分をどのように確保するかが課題となっている」（一般土木建築工事業）、「キャッシュレス決済は引き続き増加している」（大型小売店）との声が寄せられた。

２０１９年１１月ＣＣＩ－ＬＯＢＯとの比較

【業況ＤＩ】

全産業合計では、「柏の景気」が▲25．3に対し、「CCI-LOBO」が▲26．8で柏の方がマイナス幅が1．5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業である。

【売上ＤＩ】

全産業合計では、「柏の景気」が▲18．3に対し、「CCI-LOBO」が▲22．5で柏の方がマイナス幅が4．2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、製造業は10ポイント以上悪い。

【採算ＤＩ】

全産業合計では、「柏の景気」が▲28．1に対し、「CCI-LOBO」が▲25．1で柏の方がマイナス幅が3．0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、建設業は10ポイント以上悪い。

【仕入単価ＤＩ】

全産業合計では、「柏の景気」が▲28．1に対し、「CCI-LOBO」が▲39．3で柏の方がマイナス幅が11．2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、建設業、サービス業は10ポイント以上良い。

【従業員ＤＩ】

全産業合計では、「柏の景気」が△19．7に対し、「CCI-LOBO」が△24．2で柏の方がプラス幅が4．5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上悪い。

【資金繰りＤＩ】

全産業合計では、「柏の景気」が▲12．6に対し、「CCI-LOBO」が▲13．6で柏の方がマイナス幅が1．0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業である。

２０１９年１１月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図	特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
	DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 25.3	▲ 10.5	▲ 38.4	▲ 42.3	±0.0
CCI―LOBO	▲ 26.8	▲ 6.9	▲ 28.5	▲ 42.4	▲ 23.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 18.3	▲ 10.5	▲ 46.1	▲ 26.9	15.3
CCI―LOBO	▲ 22.5	▲ 0.9	▲ 24.0	▲ 41.9	▲ 18.9

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 28.1	▲ 31.5	▲ 30.7	▲ 30.7	▲ 15.3
CCI―LOBO	▲ 25.1	▲ 9.6	▲ 25.3	▲ 37.7	▲ 25.5

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 28.1	▲ 31.5	▲ 30.7	▲ 30.7	▲ 15.3
CCI―LOBO	▲ 39.3	▲ 44.6	▲ 38.8	▲ 40.0	▲ 37.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	19.7	31.5	15.3	15.3	15.3
CCI―LOBO	24.2	40.7	10.9	21.1	29.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 12.6	▲ 10.5	±0.0	▲ 26.9	±0.0
CCI―LOBO	▲ 13.6	▲ 4.2	▲ 12.3	▲ 21.5	▲ 15.6

ＣＣＩ－ＬＯＢＯ

商工会議所早期景気観測（１１月速報）

調査期間：2019年11月14日～20日

調査対象：全国の338商工会議所が2,622企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況ＤＩは、消費低迷から悪化。先行きは、期待感見られるも、慎重な見方続く

１１月の全産業合計の業況ＤＩは、▲２６．８と、前月から▲２．７ポイントの悪化。省力化投資を中心とする設備投資や都市部の民間工事などの建設業は堅調に推移したものの、消費税率引上げに伴う消費者の節約志向の強まりや、高額品を中心とする駆け込み需要の反動減の影響が残り、小売業やサービス業、卸売業など幅広い業種の売上が落ち込んだ。また、米中貿易摩擦や世界経済の先行き不透明感、深刻な人手不足や人件費の上昇、仕入コストや光熱費の増加が業種を問わず、広く業況の押し下げ要因となっており、中小企業の景況感には鈍さが見られる。

先行きについては、先行き見通しＤＩが▲２３．５（今月比＋３．３ポイント）と改善を見込む。クリスマスや年末年始の個人消費拡大やインバウンドを含めた観光需要拡大への期待感がうかがえる。一方、消費税率引上げの影響や、人件費の上昇や受注機会の損失など人手不足の深刻化の影響、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦や世界経済の動向、日韓情勢の行方など不透明感が増す中、中小企業の業況感は慎重な姿勢が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況ＤＩは前月に比べ、製造業、卸売業、小売業、サービス業で悪化、建設業は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「再開発エリア関連の工事の受注が多く、売上は改善したものの、現場の人手不足は慢性化しており、設計や技術者の確保に難航している。受注機会の損失に加え、建設資材の高止まりやリードタイムの長期化、人件費の増加に伴い、収益が圧迫されている」（一般工事業）、「台風被害による修繕依頼が大幅に増加しているが、屋根や樋の修理に偏っているため、業者の手配が間に合わない。必要な資材も不足しており、依頼を受けても来年以降の対応しかできない状況」（建築工事業）

【製造業】「米中貿易摩擦の影響は大きく、主要取引先からの受注が激減している。経費削減や生産性向上に向けた取組推進などの対策を講じているほか、新たな産業分野への進出に取り組んでおり、今後の受注増に期待している」（金属加工機械製造業）、「軽減税率対象商品を取り扱っているが、消費税率引上げ後の売上の落ち込みが戻らず、消費者の購買意欲の減退を感じる。これから年末年始に向けて収益増を見込むが、中長期的には不安感が拭えない」（食料品製造業）

【卸売業】「民間工事を中心に建設業からの受注は堅調なものの、仕入価格や人件費、運送費等の上昇分の販売価格への転嫁に難航しており、収益確保に苦戦している」（建設資材等卸売業）、「消費税率引上げ後、取引先の小売店の売上が落ち込み、引き合いが鈍い。また、季節商品の動き出しも遅れており、売上が伸びない」（日用品雑貨卸売業）

【小売業】「キャッシュレス・ポイント還元事業によりクレジットや電子マネーの取扱いが増加しているものの、客足は伸びず、売上増加に結び付かない。消費税率引上げ後、消費者の低価格指向・節約志向がますます強まったように感じる」（紙・文房具小売業）、「インバウンドを中心とする団体客の増加が売上を下支えしており、今後、フリー客をいかに取り込んでいくかが課題である。消費税率引上げ後、高額商品の売上が大きく落ち込んでいるほか、物流コストや人件費の負担増の影響も大きく、売上・採算ともに悪化した」（百貨店）

【サービス業】「台風１９号の影響が残り、秋の行楽シーズンにも関わらず予約のキャンセルが相次ぎ、売上が低迷した。しかし、１２月以降のスキーシーズンの予約は、インバウンド需要を中心に前年同月比２０％以上と好調であり、今後の売上増加を見込んでいる」（宿泊業）、「日韓情勢を背景とした韓国からの観光客の激減が続いている。最近は中国人観光客が増加してきたが、落ち込み分をカバーしきれていない。人件費の上昇も圧迫要因となっており、売上・採算ともに悪化した」（公園・遊園地）

全国・産業別業況ＤＩの推移

「見通し」は当月水準に比較した向こう３ヶ月の先行き見通しＤＩ

	全産業	建　設	製　造	卸　売	小　売	ｻｰﾋﾞｽ
６月	▲ 18.3	▲ 9.5	▲ 20.0	▲ 25.5	▲ 28.3	▲ 10.9
７月	▲ 20.2	▲ 5.6	▲ 20.5	▲ 27.4	▲ 33.9	▲ 14.5
８月	▲ 21.0	▲ 9.5	▲ 23.1	▲ 25.2	▲ 31.1	▲ 15.9
９月	▲ 20.0	▲ 4.8	▲ 21.1	▲ 30.6	▲ 27.5	▲ 17.1
１０月	▲ 24.1	▲ 7.9	▲ 25.3	▲ 26.9	▲ 38.6	▲ 20.4
１１月	▲ 26.8	▲ 6.9	▲ 28.5	▲ 29.4	▲ 42.4	▲ 23.8
見通し	▲ 23.5	▲ 9.3	▲ 25.3	▲ 26.9	▲ 32.6	▲ 21.8

柏の景気情報

（１１月の調査結果のポイント）

調査期間：2019年11月25日～12月6日

調査対象：柏市内156事業所及び組合にヒアリング、回答数71件

柏市の業況

全産業DIは改善するも、卸小売、製造業はマイナス幅大きい。先行きは期待感見られるも、慎重な見方崩れず

１１月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲２５．３(前月水準▲３４．２)となり、マイナス幅が８．９ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業＋１０．０(同▲２１．４)、卸小売業▲４２．３(同▲５９．０)、建設業▲１０．５(同▲２０．０)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲３８．４(同▲２８．５)である。

柏の景気情報・産業別業況ＤＩ

	全産業	建設	製造	卸･小売	ｻｰﾋﾞｽ
６月	▲21.9	▲25.0	▲ 7.1	▲37.5	▲ 6.6
７月	▲23.9	▲10.5	▲20.0	▲45.4	▲13.3
８月	▲28.5	▲10.5	▲42.8	▲47.8	▲ 7.1
９月	▲18.3	▲10.5	▲40.0	▲21.7	± 0.0
１０月	▲34.2	▲20.0	▲28.5	▲59.0	▲21.4
１１月	▲25.3	▲10.5	▲38.4	▲42.3	± 0.0
見通し	▲21.1	▲10.5	▲30.7	▲34.6	± 0.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう３ヶ月の先行き見通しDI

【建設業】からは、「事業承継の最中で整理に追われ、本来の業務が滞り業績が下降傾向。今までワンマンでやってきたツケが噴出」(一般土木建築工事業)、「台風被害の対応に追われ、仕事がはかどらない。屋根業者へ仕事が集中し、台風被害の現場にも影響が出ている」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「経済状況が一気に変化して、廃業、閉店が目に付くようになってきた。それぞれ考察していかなければ生き残れない」(印刷業)、「２０２０年前半まで景気停滞が続くという情報と、２０２０年３月頃から戻りそうだという情報。どちらにしても足元は全くよくない」(金属素形材製品製造業)、「温暖化により、例年の季節需要が少しずつ減っており、受注の波が無くなりつつある」(自動車付属品製造業)、「今月は社員の健康診断の月。生産性の向上や効率的な業務遂行の為にも社員の健康管理が必要とされるが、結果についても指導する必要があるのではないか」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「消費が冷えている」(食料・飲料卸売業)、「歳暮ギフトは前年実績を若干下回っている」(百貨店)、「３学期以降の新学期待ち」(書籍・文房具小売業)、「気温低下が続き、防寒物が好調。落ち込みは最小限に留められている」(大型小売店)、「流山インターの巨大物流センター２社では観光バス並みの立派な送迎用バスを運行して好評の様子。フリータイムの勤務体制とバス送迎が人気で近隣の人手不足の要因となる。また、商談の機会は多々あるが人手不足(特に有資格者)により人材確保が難しく参加できない」(飲食料品小売業)、「個人商店の減少に伴い売上も減少。働き方改革による夏場の売上減少も考えられるので、１年を通して悪化する見通し」(製氷業)、「クリスマスの予約の動きがにぶい」(洋菓子店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「何よりも人手不足は深刻。売上が伸びても外注頼りは逆に不安あり」(ソフトウェア業)、「柏インフォメーションセンターが新しくなってから、人が入っているのを見ない」(不動産賃貸業)、「購入客からの問い合わせは減少気味。不動産業者からの自社物件の業者買取依頼が徐々に増加。賃貸需要も低調。全体としての動きは横ばい」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

１１月の景気キーワード

◎消費増税の影響

「食品を取り扱っているが、軽減税率による納品、請求書等が複雑である」(飲食料品小売業)、「売上高は増加しているが利益は増加せず。仕入価額の上昇と消費増税の影響がじわじわきている」(電気工事業)、「消費増税により約半月分位の前倒し注文はあったが、すぐに元に戻りほんの一時の動きでしかなかった」(自動車付属品製造業)、「１０月は消費増税の駆け込み変動が大きかったものの、１１月に入り落ち着いており、現状は前年実績を若干上回る推移(＋１％未満)である」(百貨店)、「増税より天候による影響の方が大きい。最低賃金引き上げにより人手と人件費の再考が必要」(各種商品小売業)、「食品は増税の影響はほぼなし」(大型小売店)、「１０月は消費増税の反動を受けたが１１月は回復基調」(各種商品小売業)、「レジデンス・テナントの空室率、賃料共に安定。下げ圧力は感じられないが、肌感覚では消費者のお財布の紐がきつくなった感じがする。やはり多少は消費増税の影響が出ていると思う」(不動産賃貸・管理業)、「気候などの影響が少なく売上は昨年並みになったが、消費増税などの影響で今後の動きが不透明」(日本料理)との声が寄せられた。

◎キャッシュレス

「キャッシュレス対策が暗礁に乗り上げている。様子見を続けるべきか検討中」(畳工事請負・畳製造販売業)、「増税とキャッシュレスで複雑になるばかり」(機械器具小売業)、「リフォーム工事では電子決済の普及が進みつつあり、諸費用の負担分をどのように確保するかが課題となっている」(一般土木建築工事業)、「キャッシュレス決済は引き続き増加している」(大型小売店)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲２５．３に対し、「全国の景気」が▲２６．８で柏の方がマイナス幅が１．５ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は１０ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業である。